



「今の日本は：」

私たち夫婦の一時間 余りの散歩コースの中に四店目のコンビニが先日、オープンした。

この同じ地域内に深夜 零時まで営業している 大型スーパーが二店ある。消費者にとっては

便利だが、こんな便利さ、豊かさが必要なのだろうか。これらの店のほかに 食べ物関連店は、二十四時間営業のファミリ

四つの広場に面した

サンティアゴ大聖堂はすべてのものの中心



て五店ある。そのほか自動車関連店が五店、ガソリン・スタンド四店、ラブ・ホテル三軒、パチンコ一店 (車で三分走るとさらに二

店ある)、大型日用雑貨店一店、ドラッグストア一店、カラオケ二店、理・美容院四店、携帯電話店一店などがある。

この地に住んで三十年になるが、これらの店は三十年前にはなかった。当時あった地元

の二つの小売店は廃業に追い込まれた。銀行、郵便局もある

が、とにかく食欲、性欲、金銭欲、そして娯楽などの欲望を満たす店が多いことにびっくりする。

田舎の住宅街とはいえ、今の日本の縮図ではないだろうか。こうした物質主義、拜金主義の中で人と人との関係は希薄になっている。自殺・離婚・いじめ・近親殺人などの事件が多いことと合わせて考えると、今の日本に何とも言えない閉塞感、心の空しさを感ずるを得ない。これから先の日本に希望が持てない。妻の辛口のユーモア

「安倍さんが早起きして、ゴミ拾いをされるそうよ。これなら美しい国づくりもよくわかる。」

地元から誕生した総理大臣なのだから応援したいと思うが「こんな日本を一緒に作って行こう」というものが何も伝わってこない。言葉に輝きがなく、生きていない。

これらに象徴されるように、今の日本は魅力が薄れ、根無し草の豊かさのように思えてならないのである。

旧約聖書に「コヘレトの言葉」(伝道の書とも言う)がある。ぜひ目を通してほしい。意味深い言葉がたくさんある。その中心の言葉「すべては空しい」「すべてに時がある」「空しいことの空しさ、すべては空しい」そして、一番最後に「結局のところ、こうだ。思い合わせて見るに、神を畏れ、その掟を守ることだ。これは

次々回に紹介する  
南スペインの超目玉「聖家族教会」



人間すべての義務なのだから。神は、すべての行いを裁き、かくれたことの善悪をすべて見ておられる」

このコヘレトの言葉ではないが、今の日本、結局のところ神不在。

クリスチャンとしてではなく、一人の日本人として、今の日本は人間を超えた聖なるものへの畏敬の念と、そのための教育をすることが不可欠だと思う。

今の社会への閉塞感が私を巡礼へと引き立てる。前回まで、サビエルゆかりの北スペイン巡礼を中心に書いて

次回からは同じスペインでもイスラムと融合した南スペイン・ポルトガル巡礼記。

前回の北スペインは司祭を団長とする巡礼旅行だったが、南スペイン・ポルトガルは一般観光旅行に混じっての巡礼。前回までとは少し視点を変え、巡礼記を通して今の閉塞感を打ち破りたい。そして、サビエルが見た日本人観「貧しくとも礼儀正しく、名譽を重んじ、信仰深い日本人」に、自らがなるよう努力したい。(元山口放送取締役ラジオ局長)